

人の役に立ち 名の残る人材になりたい

古島 規雄^{のりお}さん（鏡町）



「おはようございます」「いってらっしゃい」「いってきます」の元気なあいさつが飛び交う鏡町四つ角近くの横断歩道で、児童の安全な登校などを見守るのは、交通指導員歴36年の古島規雄さんだ。鏡町交通指導隊の隊長として、毎週月曜日と木曜日の朝7時から8時半まで、街の交通安全を見守っている。子どもたちが笑顔で手を振る姿に「子どもたちの笑顔が見られて嬉しいですね」と語る。

市政協力員や区長なども務める古島さんは、東陽町の河俣出身。高校生の頃は138kgの体格を生かし、相撲部のエースとして活躍。県大会で優勝するほどの実力者だった。高校卒業後は鏡町で事業を展開し、今年で56年目。清涼飲料を製造から販売まで行う九州保健飲料工業の設立をはじめ、乳酸菌、えのき茸、肥料、青果物の製造・販売、そしてレンタカー事業を1代で創り上げた。常に考え、先読みしながら行動してきた結果が現在につながり、若い頃に挑戦したさまざまな経験が今後行動する際の自信にもなっているそうだ。



▲子どもたちの安全な登校を支える古島さん

古島さんがさまざまな分野で活躍するようになったのは、戦時中、疎開してきた人たちに寝床や食事を提供した経験を通して「人の役に立つことをしていきたい」と思ったのがきっかけだった。その思いを胸にいつも行動を起こしている。鏡小学校の校門から玄関前までは土の通路のため、雨天時にはぬかるみ、児童の靴や玄関のアスファルトが土で汚れることを知った。そして今年9月、全長約55m、幅1.3～3.1mの通路をアスファルト舗装し、長さ2.5mの側溝設置を寄附した。児童から『舗装後、雨天時でも靴は濡れず汚れることもありません。歩きやすくなって気持ちがいい』とのお礼の言葉や感謝の寄せ書きが贈られた。保護者からもお礼を言われ、「保護者も、子どもの靴が汚れるのを気にしていたのだと思う。感謝の言葉は本当にありがたい」と古島さん。人の役に立ち人から感謝されることは、とても幸せなことであると再確認したという。

県外の大学に進学している孫が帰ってきたらドライブでもしたいという、古島さんの最終目標は「名の残る人材になること」である。新年を迎える前には、市役所本庁や地元の鏡支所の玄関に高さ約3mの門松を毎年寄附しており、今年もその予定だ。

古島規雄さんの貢献は、既に人々の記憶、そして八代市の歴史にも刻まれている。



2014.NOVEMBER

No.119

- 3 五家荘 紅葉祭
- 4 八代妙見祭
- 8 平成27年度
保育園・八代市立幼稚園の入園申込み
- 10 平成27年度
八代市立幼稚園 園児募集
- 11 11月は児童虐待防止推進月間
- 12 定住自立圏構想に基づく「中心市宣言」
- 14 暮らしの情報
- 16 市民カレンダー
- 18 暮らしの情報
- 24 広告
- 28 まちのわだい
山頭火の直筆資料鑑賞・山頭火シンポジウム
くまもと県南フードパレーフォーラム
NTT西日本 電線を地中化
優良商品賞受賞の報告と新商品披露
彦一とんち話を観光づくりに活かそう
鏡小学校敷地内通路の舗装寄附
他10件
- 31 伝言板
- 32 松浜軒／松井文庫の至宝

広報やつしろは、市ホームページでもご覧いただけます。

トップページ → 総合案内 → 広報やつしろ